

「信仰によって強められる人」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

長く生きてみると、誰もが大きなり小なり、他者の悪意によって傷つくことがあります。しかし人によって同じようなことを経験しても受けるダメージが違うのは何故でしょうか。

所謂、精神的に傷つきやすい人とそうでない人の違いとは何か。

：情報処理の方法、能力の違いによる。

言語の解釈する力に拠る。

：感受性の違い人間による。

鈍感 敏感

：人との距離感の違いによる。

人間関係に真剣か適当かの違いによる、

立場やものの見方の違いによる。

みなさんは、傷つきやすい人ですか。

傷つき難い人ですか。

答え <時と場合、相手によって、弱い人にも強い人にもなる?!>

一般的に、傷つきやすい人は精神的に弱いタイプで、傷つき難い人は精神的に強いタイプとして分類されていると思いますが。誰も弱い人にはなりたくなくありません。どうせなら、強い人になりたいのではないのでしょうか。

私はかつて中学、高校時代、周りからからかわれても反抗出来ない弱いタイプの人間でした。だからずっと強いタイプの人間に憧れていましたが。私の神学校の恩師のフーストン先生は、クリスチャンが精神的に強い人になることを否定していました。それは決して精神的に弱い人になれという意味ではなく、傷を受けることを恐れない人になれという意味においてです。フーストン先生言わく、それが私たちが愛する主イエスの生き様であり、聖書が説く信仰者のあり様だからだと。

では、傷つくことを恐れない人とはどのような人か、

それは、〈恵みによって、信仰によって強められる人〉です！

今朝は、主イエスの雛形と言われるヨセフの生涯から、〈恵みによって、信仰によって強められる〉信仰者のあり様について一緒に学んでみたいと思います。

朗読 創世記 50:15-21 新共同訳

「ヨセフの兄弟たちは、父が死んでしまったので、ヨセフがことによると自分たちをまだ恨み、昔ヨセフにしたすべての悪に仕返しをするのではないかと思った。そこで、人を介してヨセフに言った。「お父さんは亡くなる前に、こう言っていました。『お前たちはヨセフにこう言いなさい。確かに、兄たちはお前に悪いことをしたが、どうか兄たちの咎と罪を赦してやってほしい。』お願いします。どうか、あなたの父の神に仕える僕たちの咎を赦してください。」これを聞いて、ヨセフは涙を流した。やがて、兄たち自身もやって来て、ヨセフの前にひれ伏して、「このとおり、私どもはあなたの僕です」と言うと、ヨセフは兄たちに言った。「恐れることはありません。わたしが神に代わることができますでしょうか。あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。どうか恐れしないでください。このわたしが、あなたたちとあなたたちの子供を養いましょう。」ヨセフはこのように、兄たちを慰め、優しく語りかけた。」

創世記 50:15-21 新共同訳

本論

ヨセフはその人生で不運と言わざるを得ない程、他者の悪意に翻弄された人物ですが、不思議と彼の言動から自分を傷つけた人達への恨み、辛みを聞きません。

例えば、

彼を奴隷に売った兄達に対して、

彼を偽証で訴えた主人の妻に対して、

獄屋でヨセフに励まされた恩を忘れたファラオの給仕役に対してもです。

何がヨセフをして他者の悪意にめげず、どんな境遇にあっても悪を思わず最善を求めることができたのか。

それは、彼が強靱な性格と才能に秀でた強い人だったからではありません。

ヨセフが悪にめげなかった理由、

それは彼が〈主の恵みと信仰によって強められて生きた〉からです。

ヨセフが〈主の恵みと信仰によって強められて生きたとは、どういうことか。

それを具体的にお話しする前に少し脇道に逸れますが～

いわゆる強い人と弱い人の違いについてポール・ティーリッヒが興味深い分析をしています。ティーリッヒ曰く、強い人と弱い人の違いは、人の性質、気質の違いによるのではなく、不利益な状況に対して人がどのように反応するか、つまり強く反応するか、弱く反応するかで決まると説明しています。わかりやすく言うと危機的な状況に対してそれを克服しようと挑戦的になる人が強い人で、不利な状況に対して腰が引けて相手に反発、抵抗出来ないのが弱い人だと言うのです。

私は自分は、弱いタイプの人間だと自覚していたので、イエス様の恵みを知ってクリスチャンになったとき、これで強い人になれると喜んだのですが。これが間違いだらけのクリスチャンライフの始まりだったんですね。どういうことか、人が恵みによって強められるとは、ティーリッヒが言うようないわゆる強い人になることではなかったのですから。

では、人が恵みと信仰によって強められるとはどうかことか。

それは、

「主は人の行いや働き、その道徳性によってではなく主の憐みと愛しみによって人を一方的に無条件に受け入れてくださるといふ真実により頼んで生きる」ということです。

繰り返して言います～

ヨセフは、傷つくことを恐れない人でした。それは彼が自らの弱さと正直に向き合って、神の恵みと信仰によって強められて生きていたからです。

ヨセフは、彼の故郷カナンが飢饉に襲われとき、彼を奴隷に売った兄達が食料が豊富に備蓄されていたエジプトに食料買い出しにやってきたとき、計らずも兄達と再会したのですが、その際、ヨセフは彼らに復讐するのではなく、彼らを罪の悔い改めに導き、和解するために自ら権力を見事に用いました。その結果、ヨセフの父とその一族は命の危機を免れ、ヨセフは兄弟たちとの間に神の平和を得たのですが。それは今朝、再三申し上げるように、ヨセフが神の恵みと信仰によって強められて生きたからです！

このことを証しするヨセフのセリフをもう一度、朗読しますが。

創世記 50:19

恐れることはありません。わたしが神に代わることができましようか。あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。どうか恐れなくてください。このわたしが、あなたたちとあなたたちの子供を養いましょう。

ヨセフはここで兄達に、人間の行いや働きによらず、たとえそれが道徳的に赦しがたいことであっても神は人を受け入れてくださるとの神の恵みを語り聞かせています。そして神がヨセフの全てをあるがまま受け入れたように、ヨセフも兄達の全てを受け入れると告白したのです。

証し

僕は、先程、自分は弱いタイプ人間だと申しあげました。しかし、今回のメッセージの準備を通じて自己認識を改めました。どういうことか。

正直に申しあげると、今でもうちに自分ではどうすることも出来ない弱さがあります。それは、ギャンブル依存やアルコール依存、薬物依存症の方々が自分でどうすることもできない弱さを抱えておられるように僕も同じようなどうしようもない弱さを抱えてあます。そんな僕ですが、今回、ヨセフの生涯を学んで、自分は神の恵みと信仰によって強められる人として召されていると再認識したのです。

どういうことか、僕はクリスチャンになる前も後も一貫して自分の弱さを努力して克服するもしくは、信仰によって克服することが人として、クリスチャンとしてあるべき望ましい姿、生き方だと信じてきました。

しかし、その生き方自体、自分の弱さに囚われた生き方だと気づいたのです。そして僕が自分の弱さに囚われている限り、僕は、世に云う傷つくことを恐れて、弱い人が強い人になるより他ないと気づいたのです。

今回、ヨセフの生涯の学びを通じて、僕はイエス様にある神の恵みすなわち神は僕の行い、働き、性質、性癖、習慣いわゆる僕の間性如何に関わらず、神の独り子イエス・キリストの十字架の血潮と復活によって、僕を一方向的に赦し、愛し、受け入れてくださっておられる、だから僕はもう自分の弱さに囚われで生きる必要がないと再認識したのです。それが、神恵みと信仰に強められて生きることだと。

自分の弱さに目を留めるのではなく、主の憐みと慈しみに目を留めて生きる。それが、神の恵みと信仰によって強められて生きる！

みなさん、初めて聞いた話しじゃないですよ。私も何百回も耳にし、私自身語ってきたメッセージです。

神はイエス・キリストにあって、イエス・キリストの故にあなたや私をあるがまま受け入れ、赦し、愛しています。

あなたや、私はこのイエス様の福音に生きるように招かれているのです。

イエス様の福音に生きることを願うなら、もう、自分の弱さに傷つくことを恐れて、弱さを隠したり、弱さを嘆いたり、弱さを克服しようと頑張る必要はないのです。

神様は、イエス様にあって

私たちが神の恵みと信仰によって強めてくださるのですから！ お互いもっと、もっと、神様の憐みと慈しみに信頼していいんじゃないですか。

そのために神様は、私たちに神の霊をくださっておられるのですから。

「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。」

テモテへの手紙二 1:7 新共同訳

祈り